

東海道五十三次を往く

第26回

ふたがわ
二川宿



レトロな雰囲気醸すホーロー看板。「味噌溜」とは、味噌を作る過程で生まれるエキスのようなもの。

西駒屋田村家住宅母屋

事業に成功した駒屋は、東駒屋と西駒屋という分家を持ち、現在も数棟の建物が残っている。西駒屋田村家住宅母屋はその一つで、国の登録有形文化財に指定されている。



東京から33番目の宿場である二川宿は、総戸数328軒と比較的小さな宿場。町割りや道路の幅など、当時とあまり変わらない姿を残している。



東問屋場跡

宿場を利用する大名のために、必要な人や馬を用意する大切な役割を担っていた問屋場。現在はその跡に石碑が立つ。



商家「駒屋」

明和5（1768）年頃に創業し、米穀商と質屋の兼業で大成長を遂げた商家。駒屋を営むかたわら、宿村役人を務めて財を成した田村家の貴重な遺構を公開している。母屋、離れ座敷、脇門、茶室、南土蔵、中土蔵、北土蔵、北倉の8棟の建物からなり、当時の商家の形式をよく保存している。

愛知県豊橋市二川町字新橋町21
☎0532-41-6065
営業9時～17時
休月曜（祝または振休の場合は翌日）、12/29～1/3



東海道らしい風情が漂う二川宿。2カ所しか現存していない本陣の遺構や、江戸時代の商家である駒屋と、その分家である東駒屋、西駒屋の建物など、狭いエリアに貴重な見どころが点在する。本陣は現在資料館として整備され、大名や公家を利用した宿舎を公開。隣には、一般庶民が利用した旅籠屋「清明屋」も復元され、江戸時代に敷かれていた身分制度を、宿泊設備の違いで体感できるのも面白い。

貴重な建物の数々が風情ある街並みを彩る

長く旅してきた東海道五十三次の旅は、いよいよ三河最東の宿場町に。古の情緒を楽しみながら、往時の面影を残す街道を歩きました。



豊橋市二川宿本陣資料館

大名や公家などの貴人が利用する宿であった「二川宿本陣」と、江戸時代の街道や宿場、本陣、大名行列などについて広く学べる「二川宿本陣資料館」、さらに庶民が利用した旅籠屋「清明屋」の3エリアからなる。現存する本陣は非常に貴重な史料。本陣らしい格式ある佇まいを見せている。

愛知県豊橋市二川町字中町65
☎0532-41-8580
営業9時～17時（最終入館は16時30分）
休月曜（祝または振休の場合は翌日）、12/29～1/1



街道側の入口から最も奥に位置する書院棟は、当時の資料などに忠実に復元されたもの。大名など高貴な身分の人物が宿泊する上段の間などがあり、一層落ち着いた雰囲気。



弥次さん、喜多さん
みたいでしょ



体験コーナーでは、当時の旅人の衣装を纏って記念撮影もできる。



主屋、繋ぎの間、奥座敷を有する旅籠屋「清明屋」。当時の旅籠屋建築の様式がよく残され、また、到着した旅人がもてなしを受ける姿などが再現されている。



いよいよ
愛知県!



本陣コロッケ

ほくほくのじゃがいもに、西駒屋の赤味噌を合わせた、愛知県らしい当地グルメ「本陣コロッケ」。

山崎精肉店
愛知県豊橋市二川町字中町60-1

